

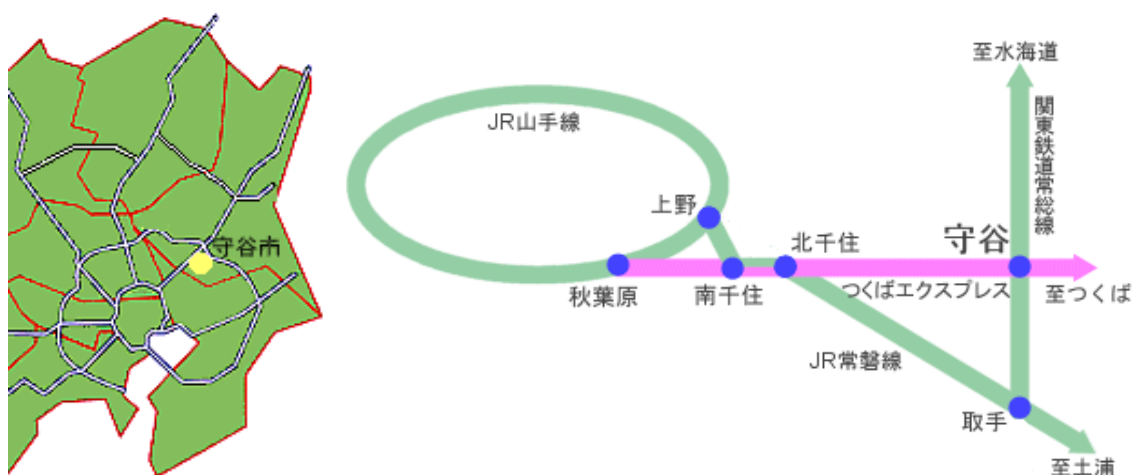
## 事例番号 35 アーティスト・イン・レジデンス等による地域交流(茨城県守谷市)

### 1. 背景

1991(平成 3)年 10 月、東京芸術大学のキャンパスが茨城県取手市に開校した。茨城県はこの建設計画が具体化する中で、急速に都市化が進んでいた県南地域で国際性と芸術性をキーワードとし、かつ先進性を兼ね備えた新しい施策の展開を図るために専門家とともに様々な検討を進めていた(1991 年度「国際芸術文化交流拠点整備構想(アーカス構想)」策定)。その結果、当時、欧米で広く行われていたものの国内ではほとんど知られていなかった「アーティスト・イン・レジデンス」を核とし、あわせて県民に対しアーティストとの交流や創作体験の機会を提供する事業の展開を決定した。

その事業拠点として、東京へのアクセスの容易さがあり、ある程度の都市化が進んでいる県南端の守谷市が選定され、1995(平成 7)年度から 5 年間にわたり、守谷市等の協力のもとで「アーカス構想パイロット事業」が試行的に実施された。

守谷市では、当時、1995(平成 7)年に廃校になった大井沢小学校の活用策が、学識経験者や住民代表をメンバーとする「校舎および跡地利用検討委員会」で検討されていた。そして、上記の事業は同検討会で提起されていた「生涯学習施設構想」とも目的が一致したことから、同小学校跡地を市民を対象とした社会教育施設にするとともに、アーティスト・イン・レジデンスの拠点「学びの里」としても活用することとした。この茨城県の取組みは内外の専門家や地域住民の関心と呼ぶとともに若手アーティスト育成プログラムとしても成果をあげ、2000(平成 12)年度から「アーカスプロジェクト」(アーティスト・イン・レジデンス・プログラム、コミュニケーション・プログラム等を内容とする)として本格展開されることとなった。



守谷市の位置 (資料:守谷市商工会 HP) 守谷市へのアクセス (資料:守谷市 HP)



学びの里（アーカススタジオ）の位置



学びの里（資料:茨城県）

## 2. 目標

「アーカスプロジェクト」は以下の 4 つのプログラムで構成され、それぞれの目的は下記のとおりである。

### ① アーティスト・イン・レジデンス・プログラム

国内外から招聘した若手現代芸術家が「もりや学びの里」の教室をスタジオとして利用して創作活動を展開するのを支援することにより、芸術文化の振興に寄与するとともに、県民と芸術家が交流する機会を創出することを目的とする。

### ② コミュニケーション・プログラム

県民が芸術家と身近に交流し、芸術創造活動を楽しみながら体験する機会を提供することを目的とする。招聘アーティストをはじめ、国内外の芸術家によるワークショップを実施している。

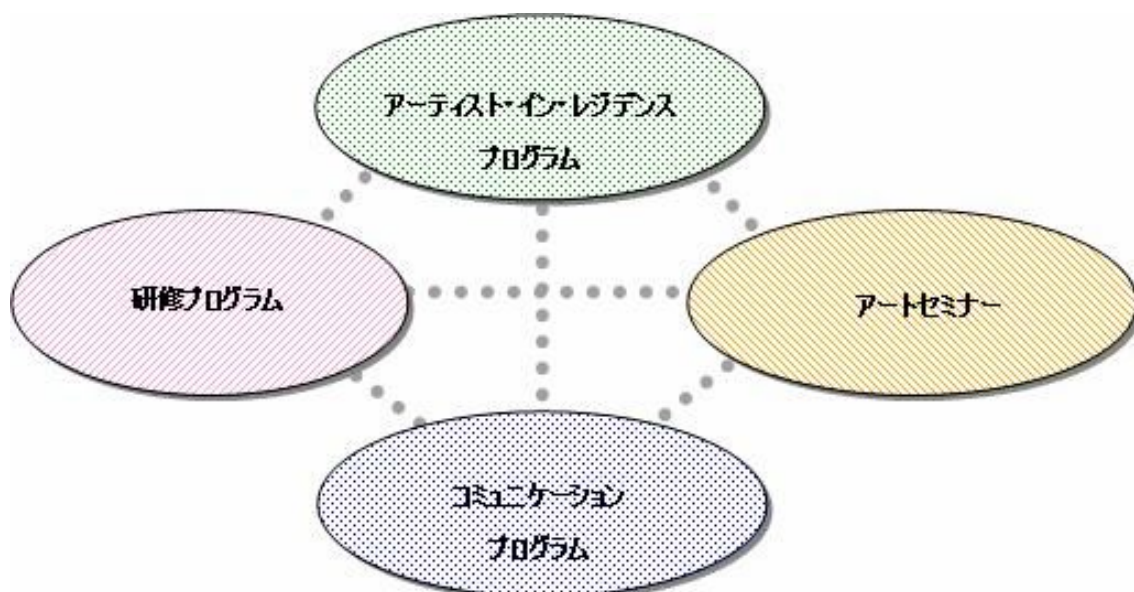
### ③ 研修プログラム

1999(平成 11)年度から、アーティストで東京芸術大学助教授の日比野克彦氏が東京芸術大学の研究生らとともに実施するインターネット上の活動とオフラインパーティ(ワークショップ)とを組み合わせた研修目的のプログラムを展開している。

### ④ アートセミナー

現代芸術の背景や環境をより広く知り、理解することを目的とするセミナーを実施している。

「アーカスプロジェクト」の構成



### 3. 取り組みの体制

#### (1) 「アーカスプロジェクト」組織体制

- ① 主催 茨城県
- ② 共催 守谷市、アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)、財団法人地域創造
- ③ 助成 デンマーク王国大使館
- ④ 協賛 アサヒビール(株)他 16 団体
- ⑤ 後援 東京アメリカン・センター、セルビア・モンテネグロ大使館、  
デンマーク王国大使館
- ⑥ 招聘アーティスト選考委員 南條史生(森美術館副館長)他 8 名
- ⑦ 運営体制 1995 年～1999 年 アーカス構想パイロット事業実行委員会による運営  
事務局は県庁内に設置し、スタジオ運営は「ワコールアートセンター」に委託  
1996 年より旧大井沢小学校は、生涯学習施設「もりや学びの里」として開設  
2000 年 「アーカスプロジェクト実行委員会」による運営  
2001 年 ディレクター制導入

#### (2) 「アーカスプロジェクト実行委員会」

「アーカスプロジェクト実行委員会」は以下により構成されている。

会長	茨城県知事
委員	茨城県企画部長、守谷市長のほか、アーティスト招聘に際し助成を行う内外の 関係機関等の代表者
事務局	県企画部地域計画課、守谷市企画課、事業運営を担うディレクター 及びアーカススタジオのスタッフ

関係機関として、現在は ACC(Asian Cultural Council、米ロックフェラー財団傘下の文化交流財団)の代表及び財団法人茨城県国際交流協会理事長が実行委員会委員になっている。

#### (3) 助成金・協賛金

財団法人地域創造、文化庁等からの助成、ACC、招聘各国の大使館等の海外連携機関、民間企業各社等の後援・協賛により運営を行っている。

#### (4) ボランティア組織(「アーカス倶楽部」、「アーカスサポーター」、「アーカスフレンズ」)

2000(平成 12)年に地元守谷市の住民を中心に「アーカス倶楽部」(会員数 13 名)が発足し、招聘アーティストの生活面での支援を担っている。

2003(平成 15)年には、創作活動を専門的に支援する「アーカスサポーター」(2005 年 3 月末現在会員数 64 名)を募集し、東京芸大、筑波大学など近隣大学の学生がプロジェクトに参画した。

2005(平成 17)年度からは、アーカスサポーターの活動を発展・拡充させるため新たに地域住民を中心としたボランティア組織「アーカスフレンズ」を立ち上げ、プログラムの運営や広報活動に携わるファシリテーターとしての活動を展開している。



#### (5) 「ディレクター制」の採用

国際的な評価を獲得して国内外のアートシーンにおけるアーカスの位置付けを高めるため、コストパフォーマンスを向上させつつ専門性のあるディレクターによるアーティスト支援を行う「ディレクター制」を2001(平成13)年度から採用している。



日比野ワークショップ (資料: 茨城県)



つくばエクスプレス開業記念イベントワークショップ [撮影; 齋藤剛氏]



「アーカスフレンズ」の活動風景 (資料: 茨城県)



#### 4. 具体策

##### (1) 2004 年度実績

- ① 招聘アーティスト 5カ国/5名(米国、台湾、セルビア・モンテネグロ、デンマーク、日本)
- ② 滞在期間 8月3日～12月25日(144日間)

2001 年度から以前の推薦制から公募制に変更して応募の枠を広げたことで認知度が高まり、2001 年度 125 件、2 年度 180 件、3 年度 246 件と応募数が増加してきている。

##### (2) レジデンス関連プログラム

- ① オープンスタジオ(滞在中の成果発表展覧会) (474 名参加)
- ② オープンスタジオ初日、東京駅からスタジオまでの無料バスによるバスツアー&レセプション (142 名参加)
- ③ レクチャー (96 名参加)

##### (3) コミュニケーションプログラム

- ① スクールワークショップ 4校 186 名参加(守谷市内の小学生を対象としたワークショップ)
- ② 研修プログラム 6回 269 名参加(守谷市、ひたちなか市、土浦市、つくば市、坂東市)
- ③ アートセミナー 2回 129 名参加(つくば市)
- ④ 参加者延べ人数 1,216 名



制作風景 (資料:茨城県)

## 5. 特徴的手法

招聘したアーティストの協力により、住民との交流やワークショップ、セミナーの実施など、地域活動への積極的な取り組みが行われている。守谷市等は、現代芸術に関する知識、情報を広める開かれたシステムとして、コミュニケーション・プログラム(芸術創作活動を体験するワークショップ等)やアートセミナー(一般の人達に現代芸術への理解を深めてもらうためのセミナー)などを初期の頃から継続的に実施している。1999(平成 11)年度からは東京芸大美術学部先端芸術表現科助教授でアーティストの日比野克彦氏と日比野研究室によるオンライン・プロジェクトが開始したが、並行してオフライン・パーティが開催され、それがその後発展して近年ではワークショップを中心としたプログラムに転換し、継続的に実施されている。

## 6. 課題

プロジェクトを今後更に発展させていくためには、以下のような課題があるものと考えられる。

- ・ つくばエクスプレスの開通等を踏まえ、首都圏等をはじめ更に広域的なアピールを可能とする効果的・効率的な事業展開を行うこと
- ・ 一般に難しいとされがちな現代芸術を、県民により身近に、分かりやすく体験してもらうための情報発信を強化すること
- ・ 事業の広報戦略を強化拡充すること
- ・ 厳しい財政状況の下で継続的・機動的な事業運営を実現するため、組織体制の見直しや自主財源の確保を図ること
- ・ 事業の成果を管理し、事業の効率化や継続的な改善に結び付けるため、事業評価方法を確立すること

(参考・引用文献)

アーカスプロジェクトホームページ

「いばらぎ地域づくりねっと」茨城県地域企画部地域計画課ホームページ